

YA…Young Adult【ヤングアダルト】の略で、  
12才～19才くらいの人たちをさす言葉

# YAだより

Vol.30  
令和7（2025）年1月発行  
船橋市東図書館



## 特集 「空を見上げてみよう」

楽しく味わう文学講座  
「夏目漱石を読む—漱石文学に描かれた心象風景を中心にー」  
第2回開催記念  
増満圭子さん インタビュー

# 特集 「空を見上げてみよう」

ここで紹介した本は  
2階参考室前「YA展示」に  
置いてあります



『星の王子さま』  
サン=テグジュペリ/著  
河野万里子/訳  
新潮社  
953/サ

画家の夢をあきらめてパイロットになった「僕」の前に現れたのは、小さな声と姿の王子さま。「ヒツジの絵を描いて」という唐突すぎるお願ひを、初めは断っていた「僕」ですが…。出会いと別れ、そして王子のかわいらしさが心に染みます。  
挿絵も素敵な名作です。



『5文字で星座と神話』  
すとうけんたろう/著・イラスト  
左巻健男/監修  
講談社  
443.8/1

ネコさんをはじめ、色んな（ゆるいティストの）動物たちが、星座の物語を教えてくれます。  
YA担当は「星座相関図」のページに描かれているペルセウスがツボにはまりました。

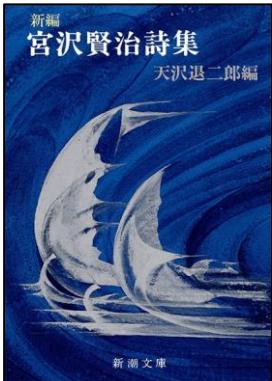


## 図書館のヒミツ

図書館の本は「NDC (Nippon Decimal Classification)の略。日本語では、日本十進分類法」という決まりにもとづいてジャンル分けされているよ。図書館の棚に並んでいる本の背に貼ってあるラベルの数字を「請求記号」というんだ。

# 特集 「空を見上げてみよう」

ここで紹介した本は  
2階参考室前「YA展示」に  
置いてあります



『新編宮沢賢治詩集』

宮沢賢治/著

新潮社

911/ミ

YA担当が宮沢賢治を知ったきっかけは、小学校で7月の歌として採用されていた「星めぐりの歌」や教科書に載っていた「永訣の朝」「雨ニモ負ケズ」でした。

この本に収録されている「恋と病熱」や「春と修羅」は、米津玄師さんやバンド・きのこ帝国の曲名などにも引用されています！読めば作品の楽しみ方が増えるかも…！

『夜のピクニック』 恩田陸/著 新潮社 F/オ

『人類がもっと遠い宇宙へ行くためのロケット入門』

小泉宏之/著 インプレス 538.9/口

『夜空にひらく』 いとうみく/著 アリス館 F/ト

『航空宇宙エンジニアになるには』

小熊みどり/著 ぺりかん社 366/ナ

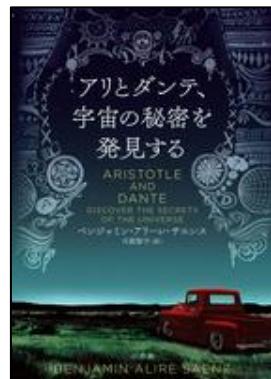
『空と星と風の歌』

小手鞠るい/作 堀川理万子/絵 童心社 F/コ

『夜に駆ける』 星野舞夜ほか/著 双葉社 F/ヨ

『アリストとダンテ、宇宙の秘密を発見する』

ベンジャミン・アリーレ・サエンス/著 小学館 933.7/サ



## 図書館のヒミツ



図書館に来てみたはいいけど、どこにどんな本があるか分からぬ…。そんなときは、館内にある検索機「OPAC（オパック/オーパック）」を使って、自分で調べることができるよ。東図書館のOPACは、1階に3台と、2階児童室に1台あるよ！もちろん、館内にいるスタッフにも気軽に声をかけてね。

# 楽しく味わう文学講座

## 「夏目漱石を読む—漱石文学に描かれた 心象風景を中心にー」 第2回

### 開催記念

増満圭子さん インタビュー



去る12月9日（土）にイベント「楽しく味わう文学講座『夏目漱石を読む—漱石文学に描かれた心象風景を中心にー』第二回」を開催しました！

漱石の心の動きがどのように作品に反映されているのかについて、漱石の前期作品のひとつ『吾輩は猫である』をメインに、増満さんの考えをお話してくれました。そしてなんと！講師の増満さんが、YAだよりのインタビューに応じてくれました😊👍



Q1：自身のお仕事について、かるべく説明すると？



普段、大学では教授として、教育や研究に取り組んでいます。その他に、文学の楽しさをもっともっと、一般の皆さんにも知っていただきたいと、図書館などで文学に関する講座を開いたり、講演をしたりもしているんですよ。文学ってなんだか少し難しい印象ですよね。でも文学も、「芸術」のひとつです。ぜひ、多くの方に、「読み味わう」楽しさをお伝えできたらいいな、と、少しずつ活動しています。

## Q2：「自身の専門分野のココがおもしろい！」を教えてください。

文学の中に表された意識・心の世界を追求することが、私の専門です。

文学と言っても、広くは漫画・アニメ・ドラマ・映画にも、そうした「こころ」の世界は描かれていますよね。大学では、そんなジャンルももちろん取り上げます。わかっているようで、わからない、不思議な「心の世界」。無意識領域さえも読み解くヒントがいくつも見いだせる、それが、文学を味わう面白さ、だと思います。



## Q3：本を読むようになったきっかけは？

小さいころから本は大好きでした。ですから、特にきっかけ、ということはなかったように思います。



## Q4：最近うれしかったことは？

劇団四季のミュージカル『ユタと不思議な仲間たち』について、以前、論文を発表したことが縁となり、今年11月に上演されたその舞台のプログラムに、解説文を寄稿したことですね。この作品には、原作がありますから、原作と舞台との比較や味わい方の魅力を、私なりに執筆しました。実際に劇場にも足を運び、ダイナミックな舞台に感動しました。これからもますます、文学・芸術の研究に力を入れていきたいな、と思っています。



## Q5：YA世代のみなさんへひとことお願いします！

忙しい現実の中でも、少しでも本を読んだり、漫画やアニメを楽しんだりするひとときは、楽しいものです。ぜひ、さまざまな芸術の世界に触れながら、感性を磨いて行ってくださいね。



### プロフィール

増満 圭子（ますみつ・けいこ）

東洋学園大学人間科学部教授。文学博士。専門は近代日本文学。

主な著作に、（単著）…『夏目漱石論—漱石文学における「意識」』、『わたしの「意識」を解き明かす 生きている「わたし」の発見』、『文学における「意識」—その心的世界を探る一』、（共著）…『『坊っちゃん』事典』など。その他論文多数。

# 担当より

皆さんは、年明けの瞬間をどんな風に迎えましたか？

私は毎年、カウントダウンをしながら、1月1日の0時0分00秒には宙に浮くことにしていました（その場でジャンプ）。…でも、普通に忘れていて気が付いたら新年でした、という年も、まあ…何回かあります。

去年は年明け早々に心配なニュースが相次いでいました。不安な気持ちで過ごした時間の長い方もいるかと思います。衆院選もありましたね。

私にとっての2024年もそんな感じで…。国内外の色々な出来事を眺めるなかで、自分の気持ちを保つことの難しさみたいなものを実感する1年だったような気がします。

とはいっても嬉しいこともたくさんありました！

- ①人生ベスト級の映画に出会えました 🐶🤖 思い出は残り続けるよね…。
- ②高校生の時から好きなバンドAと、大学時代に好きになったバンドBと、今年好きになったバンドCが共演するライブに行きました。そして、バンドAの大名曲をバンドBがカバーするという、夢みたいな瞬間を目撃できました 🎉 (あまりに嬉しかったので、太字にしてみました)
- ③コミュニケーションボードへの投稿が増えている気がしています！ 😊✨  
嬉しいです。いつも楽しみに拝見しています。図書館が、みなさんのちょっとした居場所的なものになっていたらいいなーと思っています。

今年もみなさんのご来館をお待ちしております！それではまた次号で 🌱



YAだよりVol.30 令和7(2025)年1月発行  
船橋市東図書館 YA担当 ☎047(463)3611

X



HP



Facebook

